

經濟論叢

第 122 卷 第 5・6 号

マルクスにおける生産諸力の概念について (1) …平 田 清 明	1
17世紀イングランドの土地所有 ……………尾 崎 芳 治	23
不確実性と公共投資 ……………羽 鳥 茂	40
Plant 鉄道システムにおける予算制度の創設 …森 川 章	66
ドイツ第二帝制におけるイヌンクの再編成 …… 後 藤 俊 明	88

經濟論叢 第 121 卷・第 122 卷 総目録

昭和 53 年 11・12 月

京 都 大 學 經 濟 學 會

II リカード管見

——スラッファとの関係について——

京都大学教授 菱 山 泉

スラッファの『商品による商品の生産』（1960）の理論的意義のひとつは、リカードの『原理』の第1章「価値について」（いくぶんかは第2章「地代について」）の論理的枠組みのなかで、（一般均衡理論に対比ないし代替できるような）一般的な価格決定理論を定式化したことにある。リカードの論理的枠組みのひとつの特徴は、歴史的過程のある時点（またはある年度）に身をすえて、所与の生産条件、すなわち所与の投入産出過程を前提する点に現われている。

スラッファは、こうした視点に立って、ケネーの『経済表』起源の「循環的過程としての生産」すなわち「再生産」の構想によってリカード理論を補強しながら、経済体系全体の価値と分配の理論を構成した。リカードには、いまひとつの視点、通時的な資本蓄積過程における巨視動態的な分配論の構築という視点があるけれども、スラッファ体系は、こうした視点に立つ問題を明示的に展開していない。現代、こうした問題に直接とりくんでいるのは、ハロッド以後のポスト・ケインジアンである。

外国出張

前川 嘉一 教授 〔オーストラリアの最低賃金制の研究およびオーストラリアと日本の大学間の留学生交流の発展についての意見交換〕

昭和53年10月2日より11月7日まで オーストラリア国、ニュージーランド国、ニューカレドニア